

「東京から全国そして世界へ発信する先進的な建設リサイクルの取り組み・技術」

＜提案募集要領＞

1. 提案募集内容

(1) 取り組み・技術の内容（テーマ）

全国そして世界へ発信するにふさわしい先進的な建設リサイクルへの取り組み・技術で次のいずれかに該当するものとします。（国土交通省等中央官庁、地方公共団体の建設リサイクル関係施策以外）

- ① **発生抑制**
建設副産物発生量の抑制に資する取り組み・技術。現場内利用による現場外搬出量削減の取り組み・技術も対象とする。
- ② **リ・ユース**
建設廃棄物を再使用（リ・ユース）する取り組み・技術。
- ③ **再生資材**
建設廃棄物を原材料とする新たな再生資材の技術開発、従来は新材を使用していた用途への再生資材の利用等、再生資材の利用拡大に資する取り組み・技術。
- ④ **C02削減**
特にC02削減効果が高い取り組み・技術。
- ⑤ **「レガシー」**
東京オリンピック・パラリンピック等注目される事業の「レガシー」として世界へ発信するにふさわしい取り組み・技術。提案に際しては、対象となる事業等を具体的に例示する。
- ⑥ **東南アジア等開発途上国の建設リサイクル推進に寄与（建設リサイクル展海外展開）**
東南アジア等開発途上国の建設リサイクル推進に寄与できる取り組み・技術。相手国の状況に応じて、日本の建設リサイクルへの取り組み・技術を改良したものを含む。既に海外で実績があるものに加えて、今後実施可能と想定されるものも含む。
- ⑦ **その他**
上記以外で全国そして世界へ発信するにふさわしい取り組み・技術。

※地方での取り組み・技術で全国に発信するものも提案対象とします。

⑤以外は、具体的な事業・工事での事例を求めるものではありません。業界団体や個別企業（支社単位などでも可）での取り組み・技術に関する提案を求めます。

(2) 取り組み実施・技術開発段階（時期）

募集する先進的な建設リサイクルへの取り組みの実施・技術開発段階（時期）は次のいずれかとします。

- a. 既に実施済の取り組み、既に実用化済の技術
- b. 2020年までに実施可能な取り組み、実用化可能な技術
- c. 取り組みの実施時期、技術の実用化可能な時期が2020年以降となるもの
又はアイデア段階のもの
(⑤「レガシー」を提案する場合はa, bに限定する)

2. 提案募集期限

平成28年6月17日（金）17時（必着）

3. 提案に係る著作権

提案の著作権に関する権利は提案者に帰属するものとします。

ただし、建設副産物リサイクル広報推進会議は「4. 提案募集審査と結果公表」に示す事項について、提案内容などを使用できるものとします。

4. 提案募集審査と結果公表

(審査)

いただいた提案については、学識経験者及び国土交通省等工事発注機関をメンバーとする「提案審査会（仮称）」において、提案募集趣旨「全国そして世界へ発信するのにふさわしい先進的」を審査基準として審査します。

(審査結果公表等)

「提案審査会（仮称）」において審査基準を満たすと判断された提案については、提案集として資料にとりまとめ、平成28年10月5日の技術発表会にて公表・配布するとともに、建設副産物リサイクル広報推進会議HP（英語版含む）にて海外も対象として情報発信します。（英語版HPは2019年度までに作成予定）

資料とりまとめ、HP掲載に際しては、事務局より提案者に連絡させていただくとともに、内容等について調整させていただくことがあります。

また、機関紙編集会議の承認のもと、必要に応じて「建設リサイクル」へ記事を執筆していただくことがあります。この場合は、原稿料をお支払いします。

さらに、取組み実施・技術開発段階（時期）が「b. 2020年までに実施可能な取り組み、実用化可能な技術」及び「c. 取り組みの実施時期、技術の実用化可能な時期が2020年以降となるもの又はアイデア段階のもの」については、（一財）先端建設技術センター「先端建設技術研究開発助成」の候補として推薦することがあります。

※先端建設技術研究開発助成については次を参照

<http://www.actec.or.jp/support/>

5. 建設リサイクル技術展示会の出展者募集

4月下旬より「建設リサイクル技術展示会」の出展者募集を行います。詳細は広報推進会議ホームページ（<http://www.suishinkaigi.jp/>）よりご確認ください。

6. 提案様式入手方法

次のいずれかの方法にて提案様式を入手願います。

- (1) H P : <http://www.suishinkaigi.jp/>（広報推進会議ホームページ）よりワードファイル又はPDFファイルをダウンロード願います。
- (2) F A X : 問合せ先のF A X番号へ入手依頼願います。（注1）
- (3) 郵 送 : 82円切手を貼った返信用封筒を同封し、問い合わせ先の住所宛て郵便にて入手依頼願います（注1）。

7. 提案様式送付要領

次のいずれかの方法にて提案様式を送付願います。

- (1) e-mail : 問合せ先のe-mailへ送付願います。（注1）
- (2) F A X : 問合せ先のF A X番号へ送付願います。（注1）
- (3) 郵 送 : 問合せ先の住所へ送付願います。（注1）

8. 問い合わせ先

建設副産物リサイクル広報推進会議 事務局
〒112-0012 東京都文京区大塚2丁目15番6号 ニッセイ音羽ビル4F
（一財）先端建設技術センター 企画部 担当：新妻、高野、松坂
e-mail : kensetu-fukusan@actec.or.jp
TEL : 03-3942-3991 / FAX : 03-3942-0424

注1: 件名を「東京から全国そして世界へ発信する先進的な建設リサイクルの取り組み・技術提案」と明記してください。

※: 頂いたご提案に対する個別のお問い合わせ・回答は致しません。

※: 頂いたご提案内容については、住所・電話番号・e-mailアドレスを除き公開される可能性があることをご承知おきください。匿名を希望される方は提案様式にその旨、明記してください。

「東京から全国そして世界へ発信する先進的な建設リサイクルの取り組み・技術」提案様式

送付先：建設副産物リサイクル広報推進会議事務局（（一財）先端建設技術センター企画部）行

E-Mail：kensetu-fukusan@actec.or.jp F A X：03-3942-0424

（FAXで送付する場合は、送信シートは必要ありません）

提案者	所属組織名	
	所属組織住所	
	所属部署・役職	
	氏名(フリガナ)	()
	連絡先	e-mail： 電話番号：
匿名について (どちらかに○)	希望する ・ 希望しない ※無記入の場合は、住所・連絡先を除き公開を了承したものとみなします。	
提案する 取り組み・ 技術	タイトル	
	テーマ区分 (いずれかに○)	①発生抑制 ②リ・ユース ③再生資材 ④CO2削減 ⑤「レガシー」 ⑥建設リサイクルビジネス海外展開 ⑦その他
	取り組み実施・ 技術開発段階 (いずれかに○、テーマ区分⑤はCを選択できません。)	a. 既に実施済の取り組み、既に実用化済の技術 b. 2020年までに実施可能な取り組み、実用化可能な技術 c. 取り組みの実施時期、技術の実用化可能な時期が2020年以降となるもの 又はアイデア段階のもの
	具体的内容	(添付資料がある場合でも具体的内容をご記入ください。)
	⑤「レガシー」をテーマとする場合は、対象となる事業を具体的に例示すること	
	全国そして世界へ発信するにふさわしい理由・アピールポイント	

※資料があれば添付すること。

※提案が複数ある場合は、提案ごとにこの様式を作成すること。

日本及びEU主要国の建設廃棄物リサイクル率

	国名	データ 年次	建設廃棄物(建設汚泥を含まない) リサイクル率 (%)
	EU (注1)	ベルギー	2012 暦年
ドイツ		2012 暦年	96
オランダ		2012 暦年	93
英国		2012 暦年	86
イタリア		2012 暦年	76
スペイン		2012 暦年	68
フランス		2012 暦年	63
	日本 (注2)	2012 年度	97 (96)

注1: EU各国データは次のHPの国別報告書より建設副産物リサイクル広報推進会議事務局が整理。
http://ec.europa.eu/environment/waste/studies/mixed_waste.htm

リサイクル率は小数点以下を切り捨てて整数で表示。

EUの建設廃棄物の定義には日本の建設汚泥が含まれていないため、上表のリサイクル率には建設汚泥を含まない。

注2: 日本のデータは、国土交通省「平成24年度建設副産物実態調査結果」
 ()内は建設汚泥を含む建設廃棄物リサイクル率。